

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	14-041	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>The many faces of affect a multilevel model of drinking frequency/quantity and alcohol dependence symptoms among young adults.</p> <p>若年成人の飲酒の回数/量及びアルコール依存の症状のマルチレベルモデルによる多面的に与える影響の検討</p>		
執筆者		
Simons JS, Wills TA, Neal DJ.		
掲載誌		
J Abnorm Psychol. 2014 Aug;123(3):676-94. doi: 10.1037/a0036926.		
キーワード		PMID
状態感情、特性感情、感情不安定、アルコール依存の症状		24933278
要 旨		
<p>目的： 3つの感情的な状態(状態、特性、不安定)と飲酒の3つの結果(飲酒したい気分、飲酒日の酒量、アルコール依存の症状)の関連性についてマルチレベル構造方程式モデルを用いて検証した。</p> <p>方法： 263人の大学生を対象とした。参加者から、縦断的研究デザインにおいて、1.3年以上の期間に49日間のデータが収集された。</p> <p>結果： 対象者内では陽気な感情は飲酒したい気分、飲酒量と関連した。陰気な気分は大量飲酒と高いアルコール依存性の症状と関連した。対象者間では感情の不安定さは、ネガティブな感情と関連した。ポジティブな感情特性は、飲酒日と逆相関したが、ネガティブな感情は飲酒日を増やすことと関連した。感情の不安定さは、アルコール依存症状との直接的な関連を示した。対象者間ではポジティブな感情特性は、飲酒日の割により少ないアルコール依存の症状と関連した。ネガティブな感情特性は、飲酒日数の割には高いアルコール依存の症状と関連した。</p> <p>結論： ネガティブな感情特性は飲酒量、飲酒機会を増加させ、さらに、同等量の飲酒ではアルコール依存の症状をより示した。このことからアルコール依存の症状の予測には飲酒時の感情が重要であることが示唆された。</p>		